

泉大津市新図書館サービス機能と面積の考察

第2回泉大津市図書館整備検討委員会資料

平成30年10月12日

泉大津市

泉大津市新図書館機能と面積の整理

項目	幼児0-5歳	児童6-12歳	teenage 13-18歳	成人:一般		スタディー	ビジネス支援	イノベーションスペース	
面積	375㎡+100㎡(プレイコーナー)		95㎡	580㎡ + 150㎡	80㎡	55㎡	100㎡	155㎡	80㎡
図書	絵本・紙芝居	児童書	ヤングアダルト図書	一般図書・電子図書	雑誌:新聞	郷土資料	学習・読書	ビジネス支援図書	発見、出会い
名称	おはなし室(30㎡)	児童コーナー	青少年サロン	一般図書室	雑誌・新聞コーナー	泉大津市の郷土及び行政資料	スタディールーム	ビジネス支援コーナー	イノベーションスペース
機能	絵本の読み聞かせや季節行事を実施する空間	児童が本を読んだり、調べ物ができる空間	青少年専用の空間。勉強だけでなくお喋りやゲームOKの空間	一般成人向け図書空間と閲覧空間及び学習空間、ブラウジング空間	広域、地域の雑誌新聞を読める空間	地域の歴史、特徴を調べられるデータベースや資料収集	学生や主婦、サラリーマン等が静かに学習できる室	サラリーマンや経営者、起業したい人向けの専門書を集めて配架	市民、団体、企業が出会い交流が生まれ、新しい事を創造するスペース
要件	カーペットや木の床で靴を脱いで寝転ぶことができる	児童の目線で図書が配架され、本が探しやすい分類されている	中高生専用の空間であること	一般成人向け図書の収集と整理と情報発信を行う	雑誌、新聞のバックナンバーのストック、閲覧用の椅子を付帯させる	地域の歴史、特徴を調べられるデータベースや資料収集行政資料が常備されている	机と椅子が整備され、他のオープンブラウジングから独立していること	経済書、有料データベースの閲覧ができる。コワーキングスペース併設有り	語らい、交流プロジェクト 電話、会話OK
									
	プレイコーナー(100㎡)								
	幼児や児童が自由に遊べる空間								
									
項目	ゲート・ラウンジ	カウンター・レファレンス	事務室・作業室	朗読室	研修室・会議室	児童用トイレ・授乳室	カフェ・レストラン・ショップコーナー	ゲームコーナー	ギャラリー
面積	共有面積に含む	35㎡	100㎡	40㎡	120㎡	共有面積に含む	135㎡	30㎡	60㎡
機能	入室者の管理や図書の不正持ち出し防止ゲート。ゆっくりくつろげるラウンジ	本の貸出返却を行う。必要な資料や情報を必要な人に、的確に案内するサービス コンシェルジュ機能も持たせる。予約本室も含む	本の整理、事務所、職員休憩室	目の不自由な方向への対面朗読室及び録音室	研修やイベント、会議、打ち合わせに利用。有料で地域に貸出も可能	幼児や児童向けの専用のトイレ。乳児連れの母親のための授乳室、おむつ替え台を備え付ける	休息や交流のためのカフェ軽食コーナー。ショップを併設する	ゲームコーナー。概ね高齢者向けの簡単なゲームコーナー	毛布を中心に泉大津市の市民の発表の場と歴史に触れる機能等 体験も可能とする
									
							ショップ 		

泉大津市の蔵書冊数に必要な面積

1 泉大津市の蔵書冊数

現在の蔵書冊数

	一般図書	児童図書	絵本	紙芝居	合計
蔵書数	170,586	41,480	29,202	1,636	242,904
開架冊数	63,000	24,000	8,000	1,636	96,636

2 書架の冊数の基本

幅90センチ 6-7段
7段で210冊

1段に30冊 1冊3.6センチ(一定の余裕見ている)計算
6段で180冊

3 面積計算式

開架図書書架については、余裕を見て、後ろに人が通れるくらいとすると1.8mはほしい。
6段使用とすると、1.8m×0.9m=1.62㎡に12棚(向き合わせで書架が2本)。
1段=30冊とすると360冊。
これに平方メートルあたりに換算すると222冊/㎡。

3 蔵書冊数必要面積

前提条件 6段:30冊で計算 222冊/㎡

一般図書に必要な面積 170,586冊×0.75係数(副本古本等除く=127, 939冊) **576㎡**

児童図書は4段×30冊×2=240冊 148冊/㎡ 絵本は、3段×45冊×2=270冊 166冊/㎡

児童図書に必要な面積

児童書 41480冊×0.6係数(副本古書除く)=24880冊 **168㎡**
 絵本 29202冊×0.5(副本古書除く)=14,601冊 **87㎡**
 紙芝居 冊数よりも紙芝居書架台数1台計算 **10㎡**
合計 265㎡

児童書架イメージ



絵本書架イメージ



3-3 書架スペースの面積算定

$$\text{蔵書収容力(冊/㎡)} = \frac{\text{段数} \times \text{一段に並べられる冊数} \times \text{利用率} \times 2}{\text{書架間隔} \times 0.9}$$

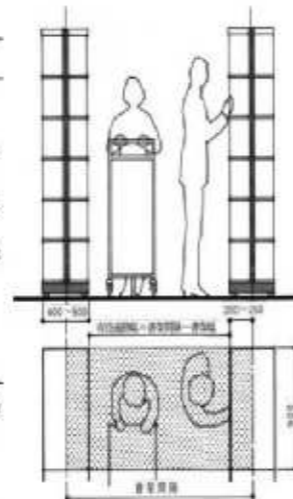
表：書架間隔と書架間における行為

書架間隔	適用箇所	書架間における利用者の行動など
1.2m	開架実用最小	最下段の資料を取り出す際には膝をつく
1.35	開架常用	最下段の資料を腰を曲げて取れる
1.5	利用者の入る開架 開架実用最小	隣架している人の背後を自由に通行できる
1.65	開架実用	声をかければ隣架している人の背後をブックトラックが通行できる
1.8	資料数の多い開架常用	隣架している人の背後をブックトラックが通行できる
2.1	利用者の多い開架	人と車椅子がすれ違うことができる
2.4	利用者の多い開架	車椅子同士でもすれ違うことができる 下段が突き出している書架が使用できる

実際の算定では、柱の存在による配置上のロスや主要な通路部分の面積などを見込んで、30%程度の割り増しをしておくことが必要。

3-4 複合・併設の図書館建築

大学図書館が図書館などの機能の複合と複合、併設して



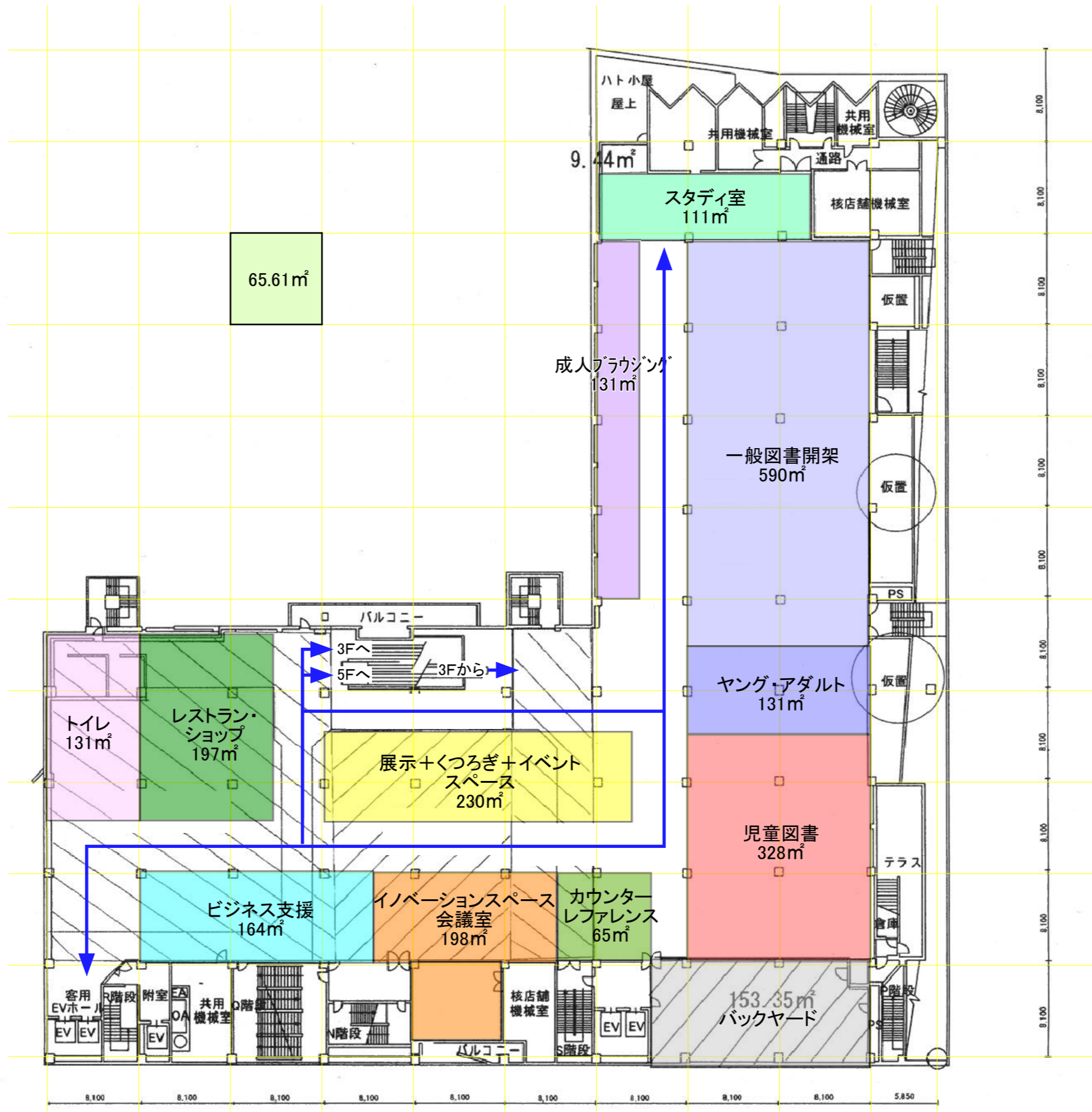
現図書館	
各室名	面積
玄関ホール	13.4
一般図書開架コーナー	317.1
児童図書開架コーナー	211.2
お話し室	42.3
郷土資料室	48.9
ブラウジングコーナー	43.1
カウンター図書整理室	58
事務所	63.3
図書返却室	6.7
書庫(閉架式)	169
会議室	84.5
視聴覚室	87.9
参考資料室	43.9
視力障がい者室	42.2
便所	79.6
ロビー1F	85.4
ホール2F	230.7
管理人室	42.2
	1669.4

椅子席の標準面積

標準型席・・・2.2～2.5席/坪

ゆったり型席・・・1.5～1.8席/坪

駅前図書館		フロア面積	専有面積㎡	座席数	面積小計
共用面積(3割) フロア3026㎡		3026	2,118		小計
成人	一般図書開架コーナー		580		
	郷土資料室		55	8	
	成人ブラウジングコーナー		150	75	
					785
児童	児童図書開架コーナー		265		
	お話し室		30		
	児童ブラウジングコーナー		80	40	
					375
青少年	ヤングアダルト図書コーナー2000冊		15		
	グループワーク(机と椅子)		80	35	
					95
スタディー	スタディー室(クローズド:40席)		100	40	
ビジネス支援	ビジネス関連図書 2000冊		15		
	打ち合わせデスク		40	15	
	有料データ端末 2台		5	2	
	PCカウンター(備付)5台		10	5	
	パソコンデスク(持込型オープン:電源)		50	25	
	ビジネスデスク(有料室:本店登記OK)		35	10	
					155
視力障がい者	対面朗読室:蔵書		40	8	40
インベーションスペース	打合せデスク4 椅子		80	20	80
雑誌・新聞	雑誌(100タイトル)		20		
	新聞(10紙)		10		
	ブラウジングコーナー		50	25	
					80
カウンター	カウンター:レファレンス		20		
	資料整理室		40		
	事務室・ロッカー休憩室		60		
	予約図書室		15		
					135
レストラン	厨房(30%)		30		
カフェ	客席(70%)		70	25	
ショップ	カウンター		20	20	
	ショップ		15		
					135
プレールーム	児童向け遊び場:自由		100	15	
ゲームコーナー	簡単なコイン型ゲーム		30	15	
展示	毛布展示(ショップ機能はまとめる)		30		
	織物教室		30		60
会議室	会議室・ホール		120	40	120
		合計	2,290	423	



平面図 (案)